

2019年度

No.6 8月23日

松 籾



発行者

穴水秀人

広島原爆の日思う

昭和20年8月6日午前8時15分、この日は、皆さんもご存じのように、米国によって人類史上初めて、広島に原子爆弾が投下された日です。一瞬にして建物が吹き飛ばされ、猛烈な熱線と放射線により、瞬時にして約14万人の命が奪われました。

74年後のこの日（令和元年8月6日）、中巨摩地区に在籍している約1,000名の教職員は、「平和教育」をテーマとした研修会に参加しました。講師に、戦時中を体験されている飯野新田在住の市川さん、コーディネーターに、市教委文化財課の斎藤さんを招聘し、戦争の真の姿について学びました。戦争とは「平和な国をつくろう」とする正義を貫くための戦いであること、よって勝つことが当たり前のような精神状態に陥ってしまうこと、息子の戦死を知らされた母親が、それでも帰ってくることを願い、晴れた日に息子の布団を干し続けていること、子どもといえども、お国のために勤労奉仕をいとわなかったことなど、真実の物語に、身につまされる思いをしました。その結果、日本全国で約310万人の尊い命が奪われました。改めて、戦争のむごさを再認識することができました。

原子爆弾による被爆者や戦争経験者の高齢化により、戦争の悲惨さを次世代に語り継ぐことが難しくなっていることをよく耳にしますが、戦争を体験していない私たち教職員にも、平和な社会を築くために、目の前の生徒たちに伝えなければならないことはたくさんあると思います。以下に紹介する文は、今年の広島平和記念式典での小学生による「平和への誓い」です。

私たちは、広島町の町が好きです。ゆったりと流れる川、美しい自然、「おかえり」と声をかけてくれる地域の人、どんな時でも前を向いて生きる人々。広島には、私たちの大切なものがあふれています。～～～中略～～～

私たちは、大切なものを奪われた被爆者の魂の叫びを受け止め、次の世代や世界中の人たちに伝え続けたい。「悲惨な過去」を「悲惨な過去」のままで終らせないために。二度と戦争を起こさない未来にするために。

国や文化や歴史、違いはたくさんあるけれど、大切なもの、大切な人を思う気持ちは同じです。みんなの「大切」を守りたい。

「ありがとう」や「ごめんね」の言葉で認め合い許しあうこと、寄り添い、助け合うこと、相手を知り、違いを理解しようと努力すること。自分の周りを平和にすることは私たち子どもにもできることです。

大好きな広島に学ぶ私たちは、互いに思いを伝え合い、相手の立場に立って考えます。意志をもって学び続けます。被爆者の思いに、私たちの思いを重ねて、平和への思いを世界につなげます。

上記の言葉に込められた「平和な社会」を求める切実な願いや、その実現のために自分自身や仲間にも込める思い、その願いや思いの深さと力強さに感動しました。

さあ、2学期が始まりました。学園祭、新人戦、合唱コンクールなど、仲間を認め合い、支え合い、高め合う絶好の機会が目白押しです。すべての生徒が「平和で居心地がよい時や場所」と実感できるような八田中学校になることを願っています。